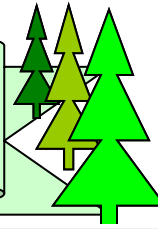


# 街路樹



## 学校図書館の機能を授業に生かす



## 音楽が言葉を越える

～ 特別支援教育 ～

学校図書館法の一部改正により「学校図書館に学校司書を置くこと」が努力事項に掲げられました。本市でも学校司書設置事業を推進し、今年度、市内の全小中学校に学校司書を配置することができました。

本があるだけの「図書室」は、そこに携わる人がいて初めて「図書館」となります。

学校訪問等で図書館に伺うと、先生方と学校司書、ボランティア

の方が協力して十進分類法による配架や、季節感のある掲示物、おすすめの本コーナーを設置するなど、児童生徒にとって、より使いやすく魅力ある「学校図書館」の環境作りが進められていることがよく分かります。気軽に相談でき、子どもの目線で本の面白さや読書の楽しさを伝え、教養的な雰囲気を感じさせることのできる人がいることで、利用や貸出が増え、「読書センター」としての機能が大きく向上しているところです。

さらに今後は「学習・情報センター」としての機能の向上に向けての取組が重要です。例えば、次のようなことが考えられます。

- ・単元や授業の導入時に、興味や関心を高めるような図書を紹介する。
- ・学習課題の設定時に、参考となる図書や前年度の児童生徒の作品、成果物等を提供する。
- ・複数の事象を比較検討することにより、理解を深める。
- ・解決した結果が正しいものであるかを検証する。
- ・作品や成果物を学校図書館に提供し保存することで、学習のよい素材や資料、手本となり、教師の教材研究の資料としても生かす。
- ・教科書での学習の発展として図書資料を活用する。



忙しい毎日の中で、先生方が学校図書館にどのような資料があるかを把握したり、限られた授業時間の中で一人ひとりがどのような資料を手に入れているかを捉えて適切な助言を与えたりすることには難しさもあります。そんな時の協力ができるよう、学校司書は毎月研修を行っています。

学校司書を大いに活用し、学校図書館を利用した授業を活性化させ、児童生徒の学力向上に繋げていきましょう。

先日、ある中学校の特別支援学級の授業を参観しました。授業は、発表会に向けて合奏の練習・発表を行うというものでした。6種類の楽器を1～2人で担当し、リズムに合わせて真剣に練習に励む姿に、目的意識の高さを感じました。

授業も終盤に入り、練習の成果を参観者に披露する場になりました。お客さん(参観者)を目の前にした生徒たちの緊張感が、観ている側にも伝わってきました。

担任の合図で演奏が始まり、生徒たちは自分の役割を果たすべく、仲間の音をよく聴いて、リズムに合わせながら上手に演奏できました。終わりかと思いきや、お客さんへのサプライズが待っていました。合奏に続いて、斉唱、更にハンドベルの演奏と続き、発表が終わりました。一瞬の間、盛大な拍手の音が鳴り響きました。

「音楽が言葉を越えた」瞬間でした。

この時の参観者の拍手には、どんな思いが込められていたのでしょうか。上手に発表できたことへの称賛のみならず、担任がねらいとした教育的ニーズへの効果、他者意識・思いやり・協調性の高まりが、音楽の発表を通して垣間見えたからなのではないでしょうか。

参観者が込めた思い(拍手)は、たくさんの I message として生徒たちに伝わったことでしょう。

子どもたちに体感を通して振り返らせ、実感させることも非常に大切であると感じることができた1日でした。

授業が終わった後で、ある男子が側にいた友だちに一言、こんな言葉を掛けたそうです。

「ありがとう。」



## 研修講座のお知らせ

### 〈授業力向上講座Ⅲ〉 応用：小学校 外国語活動

12月9日(金) 14:00～16:20 会場 小名浜第一小学校  
○筑波大学附属小学校 荒井 和枝先生による外国語活動の飛び込み授業。いわき市教育委員会所属のALTとティームティーチングの授業を実施。

### 〈授業力向上講座Ⅲ〉 応用：中学校 英語

1月27日(金) 14:00～16:20 会場 いわき総合教育センター  
○筑波大学附属中学校 肥沼 則明先生による講義。

